

OMAMORI PROJECT

私たちの想い

私たちは、海水と海藻から作られた「藻塩」を御神体としたお守りを製作しました。藻塩は、志賀海神社・志賀島の歴史を伝える重要なアイテムです。『万葉集』の和歌には、志賀島の海人による藻塩作りがたびたび詠まれており、大切な人を守る心が、海人が作る藻塩に託されています。また、志賀海神社の「山誉漁狛祭」は自然の循環に感謝するお祭りです。山の恵みが川を伝って海へ流れ込むという発想がそこにはあります。私たちは、志賀島の物や天然素材に加え、廃棄漁網をお守りの材料としました。それにより、「過去、現在、未来まで、豊かな海を私たちの手で守っていきましょう」というメッセージをこめています。私たちのお守りが、志賀島の歴史や文学、現代の環境問題に目を向けていただく契機となれば幸いです。

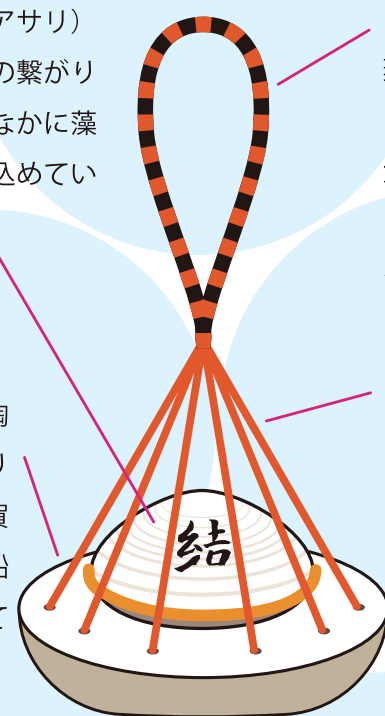
海人たちが、なぜ「山」を讃えるのか。

塩結守デザインの概要

全体的に山の形をイメージしました。
陶器プレートの上に二枚貝を載せ、廃棄漁網で包む形にすることで、山の恵みが海の豊かさに繋がることを表しました。

志賀島産の二枚貝（アサリ）を使い、大切な人との繋がりを表しました。貝のなかに藻塩（御神体）を封じ込めています。

山の一部である土（陶土）でプレートを作りました。また、志賀海神社に縁のある船の形をイメージしています。



自然の循環を意識して廃棄漁網を使い、組紐を作りました。

大切な人とのご縁が永遠に続くようにという願いを込めています。

放射状にかけた廃棄漁網は、お守りを受けた方と大切な人を守る沢山のご縁を表しています。

大切な人とのご縁を繋ぐお守り
玄関などに置き、出発の際に鈴を鳴らしてお浄めください。

お守りプロジェクト公式アカウント

【文学 × デザイナー過去を思い未来を創る新しい祈りのかたちー】
九州産業大学基礎教育センター（准教授、田中真理）と造形短期大学部（准教授、森下慎也）が、学部の枠を超えて取り組んでいるお守り制作プロジェクトです。



@OMAMORI.PROJECT

古代から現代を結ぶ歌

〔訳〕志賀島の海人が一日も欠かさずに焼く塩、その塩の辛さのように、
何とまあ、辛く恋い焦がれる思いを私はすることが。

志賀の海人の一日も落ちず焼く塩の辛き恋をも我はするかも
（『万葉集』 卷十五・三六五二、遣新羅使人歌）

天平八年（736）に新羅に派遣された人の歌。長旅にあって日々募る家郷への恋慕の情が、志賀島の海人が作る藻塩に託して詠まれています。



▲ 志賀島産の二枚貝で藻塩を封じ込め、組紐は廃棄用の漁網を編み直して再利用。